

Geistlich Bio-Oss® Collagen

ガイストリッヒ バイオオス® コラーゲン サイズ選択ガイド

ガイストリッヒ バイオオス® コラーゲンは、ウシ由来の無機骨ミネラル（ハイドロキシアパタイト）と高純度コラーゲンを複合化した骨補填材です。骨の再生をサポートし、安定したボリュームの維持に貢献します。本ガイドは、臨床症例や欠損の大きさに応じたサイズ選択の参考としてご活用ください。

サイズ比較

※下記の写真は実物の2倍です。

50mg



約2.5×5.0×7.5mm

100mg



約5.0×5.0×7.0mm

250mg



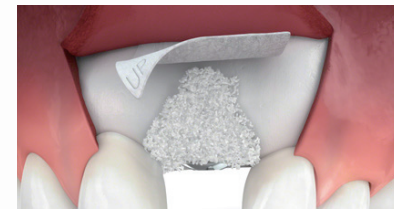
約7.0×7.0×7.0mm

500mg



約10.0×10.0×7.0mm

ガイストリッヒ バイオオス® コラーゲンの使用が可能な治療例



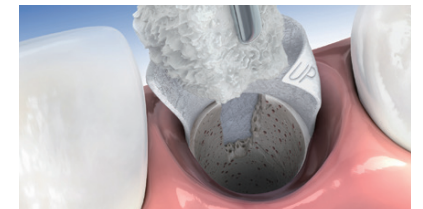
インプラント周囲の局所的骨造成 ※非荷重条件下

既存骨にインプラント体が埋入され、初期固定が得られた状態で、スレッドの露出・開窓などの軽微な骨欠損がある症例



抜歯即時インプラント埋入 ※非荷重条件下

抜歯後にインプラント体が埋入され、初期固定が得られた状態で、インプラントと頰側骨壁との間に骨欠損がある症例



歯槽堤保存術(リッジプリザベーション) ※非荷重条件下

抜歯後の歯槽堤吸収を抑制するための、ボンティック下で歯槽堤保存術を用いる症例(インプラント体を埋入するための歯槽堤保存術は適応外)

※非荷重の定義は、インプラント体が骨造成部位に荷重がかかっていない状態を指し、具体的には埋入されたインプラントが既存骨にのみ荷重がかかった状態を指します。
インプラントの初期固定:各インプラントメーカーのガイドラインに従ってください。

サイズ選択ガイド

欠損の大きさや臨床目的に応じて、下記を目安に製品サイズをお選びください。

欠損タイプ・臨床目的	推奨サイズ	ポイント
小規模な骨造成、 抜歯即時埋入、軽微な裂開・開窓	50mg	少量の骨造成に適したサイズ。 単独歯症例において軽度の骨欠損補填に有用。
内側性の骨造成、 抜歯窩が残存する単独歯症例	100mg	汎用性が高く、必要に応じて 分割・トリミングしながら欠損形態へ適合可能。
2歯程度の外側性の骨造成、 水平的骨造成、L-シェイプテクニク	250mg	十分なボリュームがあり、 骨形成のためのスペースメイキングに適しています。
広範囲の外側性の骨造成、複数歯欠損、 水平的骨造成、L-シェイプテクニク	500mg	大容量で広範囲の欠損に対応し、 十分なボリュームの確保に適しています。

使用上の注意

- 本製品は医師の管理下で使用してください。
- 本製品は再使用しないでください。本製品は、滅菌済みですので、包装が破損している場合は使用しないでください。
- 使用前に添付文書を必ずご参照ください。
- ※本資料は医療従事者向けに作成されたものです。

骨のエキスパート

ガイストリッヒは、170年以上前にウシ骨を加工し製品を製造する会社として始まりました。
その加工技術を活用して誕生したのが、ガイストリッヒ バイオオス® です。
そして、そのバイオオス® 90%に豚コラーゲン10%を加えたガイストリッヒ バイオオス® コラーゲンは、バイオオス® の利点とコラーゲンの利点を融合した製品です。
バイオオス® 誕生から30年以上経過した今でも、ガイストリッヒは長期的な研究に取り組んでいます。



50mg

約2.5×5.0×7.5mm



100mg

約5.0×5.0×7.0mm



250mg

約7.0×7.0×7.0mm



500mg

約10.0×10.0×7.0mm

swiss made



ご注文はこちらから



本資料は製品の効果および性能等の一部のみを強調して取りまとめたものではなく、製品の適正使用を促すためのものです。
製品の詳細に関しては添付文書等でご確認いただくか、弊社営業担当へご確認ください。

一般的名称: 歯科用コラーゲン使用骨再生材料 / 販売名: ガイストリッヒ バイオオス コラーゲン /
医療機器承認番号: 30700BZ100023000 / 高度管理医療機器
一般的名称: 非吸収性骨再生用材料 / 販売名: ガイストリッヒ バイオオス /
医療機器承認番号: 22300BZ100026000 / 高度管理医療機器
一般的名称: 吸収性歯周組織再生用材料 / 販売名: ガイストリッヒ バイオガイド /
医療機器承認番号: 22500BZ100003000 / 高度管理医療機器

販売業者: ガイストリッヒファーマジャパン株式会社 選任製造販売業者: AJMD 株式会社

Geistlich Bio-Oss® Collagen

サイズ別症例



サイズ別症例のご提供

丸尾 勝一郎 先生

医療法人社団健誠会マルオ歯科グループ 院長
日本口腔インプラント学会 専門医



50mg

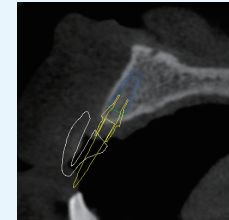
患者情報…44歳 女性

■ 症例概要

抜歯からすでに3ヶ月が経過し、抜歯窩は完全に治癒しているTypeIVの埋入症例です。術前のシミュレーションにおいてインプラント体の頬側にわずかな裂開が予想されたため、50mgのBio-Oss® collagenを用い、Bio-Gide® (13×25mm)にて被覆しGBRをおこないました。

■ ドクターコメント

本ケースのようなTypeIVの単独歯欠損への埋入で、わずかな裂開または開窓が予想される場合には、最も小さいサイズである50mgのBio-Oss® collagenが適応となります。



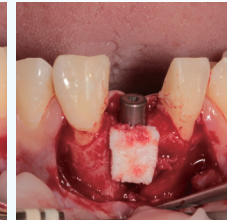
抜歯後3ヶ月時のシミュレーション画像。唇側骨の不足を認める。



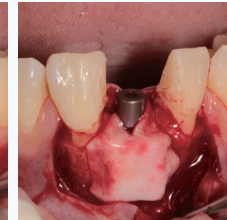
欠損部の咬合面観。水平的な骨欠損を認める。



インプラント埋入時。唇側に裂開を認める。



50mgのBio-Oss® collagenにて欠損部を補填。



Bio-Gide® (13×25mm)をトリミングしBio-Oss® collagenを被覆。



縫合し手術終了時の正面観。



100mg

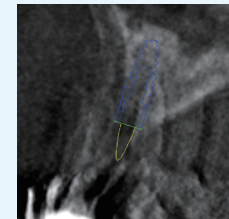
患者情報…38歳 女性

■ 症例概要

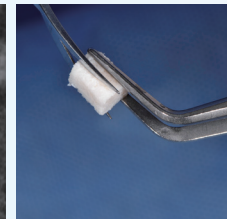
抜歯から軟組織が治癒した1ヶ月(TypeII)にてインプラント埋入およびGBRをおこなった症例です。頬側骨が大きく裂開しているため、100mgのBio-Oss® collagenを2つに分割し、裂開部だけではなく、骨の連続性を維持するように欠損部の近遠心側にも設置し、Bio-Gide® (25×25mm)にて被覆しGBRをおこないました。

■ ドクターコメント

本ケースのようなTypeIIの単独歯欠損へのインプラント埋入では、抜歯窩が大きく残存しています。そのため100mgのBio-Oss® collagenを生理食塩水に浸して柔軟性を付与した後、ハサミやメスなどで分割およびトリミングをおこない、欠損形態に合わせて設置することがポイントです。



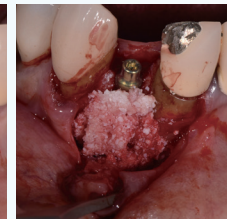
抜歯後1ヶ月時(TypeII)のシミュレーション画像。インプラント体が根尖付近まで裂開している。



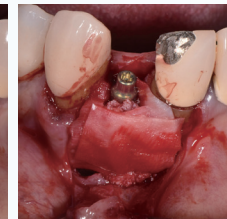
100mgのBio-Oss® collagenを生理食塩水に浸しトリミングをおこなう。



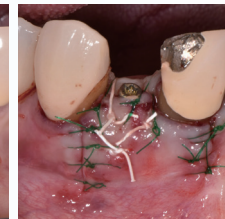
分割したBio-Oss® collagenをインプラント体の露出部分に設置。



残ったBio-Oss® collagenをさらに分割し、近遠心の骨欠損に設置。



Bio-Gide® (25×25mm)をトリミングし、Bio-Oss® collagenを被覆。



縫合し手術終了時の正面観。



250mg

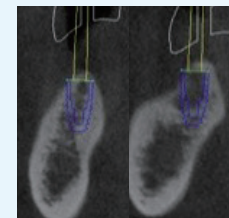
患者情報…62歳 女性

■ 症例概要

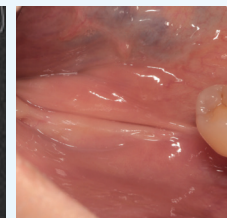
長年義歯を使用していたため、著しい骨吸収が認められる下顎臼歯部へのインプラント埋入症例です。水平的に大きな骨欠損が認められるため、250mgのBio-Oss® collagenを2つに分割し、インプラントの頬側に連続的に設置した症例です。

■ ドクターコメント

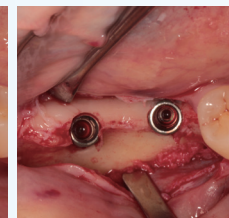
本ケースのような2歯欠損で水平的骨欠損が著しい場合は、250mgのBio-Oss® collagenを2分割し、ブロック状に欠損部頬側へ設置することが可能となります。Bio-Oss® collagenを生理食塩水に浸して柔軟性を付与することで、欠損部への適合性を高めるのがポイントです。



術前のシミュレーション画像。著しい水平的な骨欠損を認める。



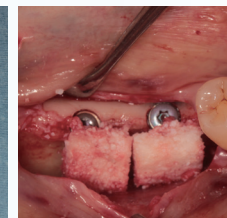
欠損部の咬合面観。角化粘膜の不足が認められる。



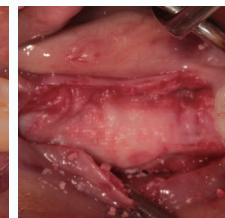
インプラント埋入後の咬合面観。頬側に骨欠損を認める。



250mgのBio-Oss® collagenを2つに分割。



分割したBio-Oss® collagenをインプラントの頬側部に設置。



Bio-Gide® (25×25mm)をトリミングし、Bio-Oss® collagenを被覆。



500mg

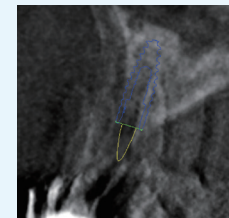
患者情報…46歳 男性

■ 症例概要

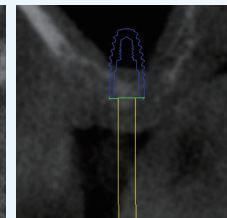
上顎前歯部から臼歯部にかけての複数歯欠損症例です。前歯部および臼歯部において広範囲の骨造成が必要となるケースです。広範囲に骨造成が必要となるため、500mgのBio-Oss® collagenを適材適所にトリミングして骨造成をおこなった症例です。

■ ドクターコメント

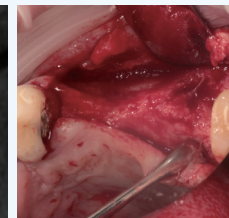
Bio-Oss® collagenは、生理食塩水に浸すことで柔軟性が増し、欠損形態に応じて分割・トリミングすることが可能です。必要な造成交量に応じてサイズを選択し、術中に欠損形態へ適合させることができる点が本製品の特長です。



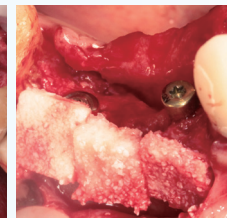
前歯部の術前のシミュレーション画像。水平的なGBRの適応。



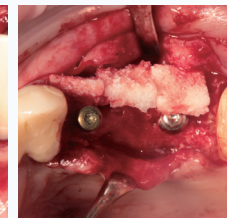
臼歯部の術前のシミュレーション画像。広範囲の骨造成が必要な症例。



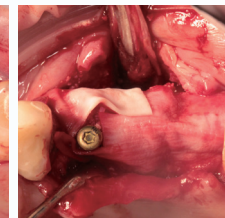
欠損部の咬合面観。頬舌的に著しい骨欠損を認める。



インプラント埋入後、頬側にトリミングしたBio-Oss® collagen 3片を設置。



舌側にトリミングしたBio-Oss® collagen 2片を設置。



Bio-Gide® (25×25mm)をトリミングし、Bio-Oss® collagenを被覆。

Dr丸尾より使い分けについてのポイント解説

Bio-Oss® collagenの大きな特徴は、①移植部で安定したボリュームを確保しやすいこと、②欠損形態に合わせて自由に形態を調整できることにあります。Bio-Oss顆粒とコラーゲンが一体化しているため、顆粒状の骨補填材と比較して一塊として取り扱いやすく、必要な部位へ移植し、その形態を維持しやすいことが臨床上的メリットです。
また、生理食塩水に浸すことで柔軟性が増し、ハサミやメスで容易に分割・トリミングすることができます。そのため、製品サイズをそのまま欠損の大きさとして捉えるのではなく、必要な骨造成交量を基準にサイズを選択し、実際の欠損形態に合わせて術中に調整するという考え方が重要です。

今回提示した症例では、わずかな裂開や開窓を伴う単独歯欠損には50mg、抜歯窩が残存するTypeIIや中等度の単独歯欠損には100mg、複数歯にわたる水平的骨欠損には250mg、さらに広範囲のGBRや大規模な骨造成が必要な症例には500mgを使用しています。欠損が大きくなるほど大きなサイズを選択するという基本を押さえながら、分割・トリミングすることで一つの製品を複数の欠損部に適合させることも可能です。
「欠損に材料を合わせる」のではなく、「必要な造成交量からサイズを選び、欠損形態に合わせて材料を加工する」。これがBio-Oss® collagenを使い分ける際の基本的な考え方です。